

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671400196
法人名	社会福祉法人 京都南山城会
事業所名	グループホーム 山城ぬくもりの里
所在地	〒619-0204京都府木津川市山城町上狛小杉谷6番地 (電話) 0774-86-5833

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成21年 12月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(12 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、柿木歯科医院、大西歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上狛駅から、すぐ近くの高台にある当該ホームは、同法人の福祉センター施設と隣接して建てられています。広い敷地内に和風の平屋造りで2ユニットになっており、玄関から入り口まで芝生が広がり、ウッドデッキのテラスや中庭もあり、窓が多く明るく開放的な雰囲気となっています。「いつも笑顔で」をモットーに、一人ひとりの利用者が長年の暮らしを変えることなく、穏やかに生活できるよう尊厳を保持しながら支援し、地域密着型サービスとしての理念である「支えあい」や「安心」を大切に考えています。また日常的に趣味を楽しんだり、外出の機会が多く、地域の方々との交流や行事の開催も積極的に行っています。職員は、定期的に委員会や勉強会を開いたり、法人内・外の研修会に数多く参加するなど向上心が高く、日々研鑽に努めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎年の外部評価をサービスの見直しと捉え、評価委員会を開催し、挙がった改善点については職員全員で話し合い、改善に向け前向きに取り組んでいます。前回の改善点であった、同業者との交流については、同じ法人のグループホームでの交換研修が実践され、高い効果が得られています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の外部評価の内容について、事前に職員全員に知らせ、自己評価は、一つひとつ自己点検に努めながら、ユニットリーダーが要約して記入しています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議は、家族会会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市高齢介護課課長、施設長、事務長、ユニットリーダーが参加し、二ヶ月に一度開催されています。会議ではホームの状況や評価結果、行事予定報告が行われ、市からの提案や家族からの質問もあり、双方向な会議となっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	毎月ホーム便りを発行し家族に報告したり、来訪時や電話での報告も行っています。また、家族会や運営推進会議は家族から意見をもらう良い機会となり、アンケートは、記入しやすい形式になるよう家族に作成を依頼して実施しています。満足度向上に努め、出された意見は実践や改善にむけて会議で話し合い、運営に反映させるよう努めています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事の情報収集を行い、学校の運動会やグランドゴルフ、カルタ会、コンサートなどに積極的に参加し交流を図っています。ホームの行事である夏祭り会では、子供たちや地域の方々が沢山招待し、毎年賑やかに開催されています。日常的には地域のボランティアの方々が、手芸や陶芸、生け花等を教えに来て下さり、利用者の方々も楽しみながら参加されています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、職員全員で話し合い「支えあい、ほほえみあって、安心して住める家」という、地域を意識した、ホーム独自の理念を作り上げています。理念は利用者の方々が書道やタイル細工の作品にして、玄関やホールにわかりやすく掲示されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に施設長が理念について話し、見える場所に掲示することで、職員間での共有・確認を行っています。常に「尊厳の保持」をケアの基盤と考え、利用者の方々に笑顔を提供できるよう、日々助け合いながら、理念の実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の情報収集を行い、学校の運動会やグランドゴルフ、カルタ会、コンサートなどに積極的に参加し交流を図っています。ホームの行事である夏祭り会では、子供たちや地域の方々を沢山招待し、毎年賑やかに開催されています。日常的には地域のボランティアの方々との交流の機会も多く設けられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、一つひとつ自己点検に努めながら、ユニットリーダーが要約して記入しています。毎年の外部評価をサービスの見直しと捉え、評価委員会を開催し、挙げた改善点については職員全員で話し合い、改善に向け前向きに取り組んでいます。	○	自己評価は日々のケアを振り返る機会になり、自信につながる事にもなるので、次回は項目を職員間で割り振って記入したり、ユニット会議で意見をつるなど、職員全員で取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市高齢介護課課長、施設長、事務長、ユニットリーダーが参加し、2ヶ月に一度開催されています。会議ではホームの状況や評価結果、行事予定報告が行われ、市からの提案や家族からの質問もあり、双方向な会議となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの巡回メールボックスが設置されており、密に連絡が取れるようになっています。その他にも何かあれば、直接報告したり、相談するなど常に連携を図っています。また市社会福祉協議会からは講師の依頼を受けて出向くこともあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ほほえみ便り」を作成し、ホームの行事報告や職員紹介、個々の利用者の1ヶ月の様子を担当者が手書きし、写真や請求書とともに送っています。また、家族の来訪時に直接報告したり、変化があれば電話での報告も行っています。また、法人の「里だより」も毎月発行しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議は家族から意見をもらう機会となっています。行事のたびに行なうアンケートは、記入しやすい形式になるよう家族に作成を依頼し実施しています。満足度向上に努め、出された意見は実践や改善にむけて会議で話しあい、運営に反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人幹部によるヒアリングや、リーダーが職員に声かけや相談事を受けるなどして、職場環境を整え、離職がないよう配慮しています。リーダーが中心になり職員同士の和を保ったり、法人間の異動では新しい職員が利用者となじみの関係ができるまでフォローしながら利用者への影響がないよう努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部・外部共に研修の機会を多く取り入れ、希望を募って積極的に参加できるように配慮しています。研修に参加後は、報告書を作成し回覧や職員会議で伝達し、研修の内容をテーマに委員会で話し合いを行うなど、内容の共有と実際のサービスに活かせる取り組みを行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム交流会を年4回開催し、勉強会や意見交換、相互の交換研修を行っています。他のホームを見ることで、現状を客観的に理解することができ、今後は他法人のグループホームとの交流の機会も視野に入れ、スキルアップやサービス向上に役立てたいと考えています。また近隣の同法人の施設とは、日常的に交流が図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学には必ず本人に来てもらい、お試し入居等でホームの雰囲気を覚えてもらっています。また家族からは食事の好みなど、以前の暮らしについての情報を得てホームの環境を整え、安心して入居して頂けるよう支援しています。入居後は傾聴に徹して馴染みの関係を築けるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の料理や調理方法、買い物など、利用者から教えてもらう機会が多くあります。日常生活を共にしながら昔の話を聞いたり、それぞれの職員に合わせた対応をしてもらい、利用者との会話や触れ合いを職員も楽しみ、喜怒哀楽を共に「一緒に暮らしている」という思いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて利用者の思いを整理し、家族にも記入してもらっています。カンファレンスや日々の申し送りの時にも本人の思いについて検討しています。一人ひとりの利用者が笑顔で穏やかに過ごせる暮らしの提供について、職員間で常に話し合い、共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや職員が記入した介護日誌、カンファレンスや申し送り時の職員の意見、家族の希望、主治医の健診結果等をユニットリーダーがまとめ、計画を作成しています。	○	介護計画の作成段階で職員全員が関わり、内容を理解・共有し、日々のケアに活かせる仕組みの工夫を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日職員が記入する介護計画行動実施表を作成し、それを基に見直しを行っています。実施表は評価を記入できる方式になっており、必要な時に見直しが行われています。計画の書き方については、見直しやケアへの反映が行われやすいように改善策を検討しています。	○	行動実施表には計画に添った日々のケアが記入されていますが、定期的な介護計画の見直しについては充分でない状況にあります。今後は計画の見直しのためのカンファレンスが行えるよう、具体的な項目内容に変更するなど工夫し、定期的な見直しに取り組むことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に合わせての散歩や買い物、通院介助、毎月の外食などできる範囲での柔軟な支援をしています。また、誕生月には利用者に希望を聞き、以前住んでおられた地域や懐かしい場所へ案内するなど個別での外出支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者の希望を聞き、個々に添った支援をしています。ホームの協力医とは24時間連絡が取れる体制にあり、向かいにある同法人の施設へ定期的に健診に通い、必要時には往診に来てもらっています。また歯科や眼科の随時訪問診療も行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについてのホームの指針について、入居時に説明しています。看取りの経験もあり、利用者が重度化した場合、家族や医師、看護師、職員とが繰り返し話し、方針を共有しながら支援しています。また、ターミナル委員会を法人内で設置し、スキルアップに向けた勉強会を行い、前向きに取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者への尊厳を重視して支援し、馴染みの関係の中での、言葉が乱れることのないよう細心の注意を払っています。接遇についてはリーダー会議の内容を速やかに職員に伝達し、勉強会を行い、ロールプレイ研修も予定しています。個人情報の含まれる書類は鍵付きの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の日課はありますが、個々の利用者の意思を大切に、その人のペースで生活できるように支援しています。その都度希望を聞き、時には居室で食事をしたり、散歩や買い物に出掛けたり、思い思いに生活してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は下ごしらえや配膳準備、片づけを一緒に行っています。献立は利用者の希望を聞き、買物でも食材を選んでもらっています。職員は利用者と同じものを同じ食卓で摂り、団欒の時間とし、お誕生会には外食やバイキング形式を取り入れ、変化のある楽しい時間になるよう工夫しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な時間は決まっていますが、希望があればいつでも対応できる体制になっています。入浴拒否の利用者には声のかけ方を変えたり、その時々で意思を確認して支援しています。また、ゆず湯などの季節湯を楽しんでいただいたり、個別の石鹸を使用し、入浴できない日は足浴を行うなど配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園や家事などで、日常生活の中でそれぞれに合った役割を感じてもらっています。同法人の施設で生花、習字、手芸等、様々な種類の教室が開催され、好きな趣味を楽しむことができる環境にあります。また、タイル細工の作品はほぼ全員の方が意欲的に取り組まれ、展覧会にも出展されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩や買い物に出かけることができるよう支援しています。日ごろ外出できていない利用者にはできるだけ出かけてもらえるように心がけています。初詣や花見、紅葉狩りなどの行事には外食を兼ねた外出や、年1回の家族との日帰り旅行も実施されています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関及び各ユニットの入り口には鍵をかけておらず、見守りしやすいようセンサーを設置して出入りがわかるように配慮しています。ホール両側にあるユニットのドアは開放されており行き来が自由で、広くオープンな雰囲気があります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、同法人の施設と合同で消防署立ち合いのもと消防訓練を行っています。昼夜を想定して避難経路を確認したり、地域の方と一緒に消化器の使用法などの講習を受けたりしています。ホーム職員はAEDや救急救命の勉強会を行い、地域の消防団にも加入しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量のチェックが必要な方には詳細に記録し職員間で共有しています。咀嚼や嚥下機能に合わせて調理法を工夫していますが、見た目を大切に必要以上に形態を変えず提供するよう配慮しています。水分は午前午後のおやつ時に充分摂れるよう努め、献立を立てる際に栄養士がチェックを行い、バランスよい食事提供に心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングや廊下には、季節の生花や絵画、共同作品のタイル細工が沢山飾られ鑑賞し楽しめる雰囲気になっています。ホールのソファセットや、リビング横のこたつコーナーなど、利用者が思い思いにゆったりと過ごせる空間が随所に設けられています。床暖房、空調設備など広いトイレや浴室など過ごしやすい環境にも配慮しています。玄関先の庭やテラスが大変広く、中庭もあり、ホーム全体に明るく閉塞感のない居心地の良い造りになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に、ご本人が使い慣れた茶碗、湯呑等の食器や家具を持ってきてもらうように依頼しています。たんすや鏡台、テレビ、椅子などを持ち込み、写真や絵などを飾りその人らしい居室作りをしています。ベッドは備え付けですが、カーペットや畳の対応も可能です。居室の窓は障子になっており、家庭的で落ち着いた雰囲気になっています。		